

日本歴史時代作家協会 理事会 議事録

日 時 令和 7 年 11 月 10 日 (月) 18:00~20:00

場 所 ロイヤルパレス新宿御苑 201 号室

出席者（理事）

飯島一次、伊多波碧、加藤淳、橋かがり、久宗圭一（司会担当）、森川雅美、森田健司、理流（議事録担当） 計 8 名

欠席者

雨宮由希夫、藤原緋沙子、菊池仁 計 3 名

監査役 柏原弘幸

出席者（他） 三田誠広（代表理事代行）、平野周、氷月葵

資 料

議案書、2025 年 11 月 10 日理事会審議事項添付資料、出版企画書、イベント収支報告資料

理事の過半数の出席をもって、本理事会は成立要件を満たし、審議結果は有効とする。

1. 審議事項

① 電子書籍事業の運営方法・体制の見直しと新たな発行形態への移行について

（久宗理事より、添付「2025 年 11 月 10 日理事会審議事項添付資料」に沿って、電子書籍事業の新たな発行形態への移行提案がなされた。）

提案内容（配布資料要約）

1. 電子書籍事業の課題

- 現在の制作方法（InDesign ソフト使用）は負担が大きい。

- ・ 新規作品の発行ペースが遅い。
- ・ スタッフの人数が限られている。

2. 新しい運営方法の提案

- ・ 協会は電子出版の「場」と「機会」のみを提供する。
- ・ 著者自身が制作工程を担当する。
- ・ 協会は最小限のサポートと助言を行う。
- ・ 協会は 1 タイトルあたり手数料 5,000 円を申し受ける。
- ・ 印税は Amazon から協会に振り込まれ、協会が 100% を著者に支払う。
(ただし、振込金額が振込手数料を下回る場合は次回に繰り越し。振込手数料は著者負担とする。)

※ 「印税は直接著者に振り込む形のほうがシンプルで協会の負担が減るのではないか」
「著者は 2 作目以降、ノウハウを習得して自分で発行するようになるのではないか」との意見があった。

3. 新レベル創設

- ・ 歴史小説に限定せず、多様なジャンルを受け入れる。
- ・ 名称は検討中（例：「歴史協会文庫」など）。

4. 具体的な施策

- ・ 電子書籍制作の手引書を作成する。
- ・ ワークショップを開催する。
- ・ ChatGPT などの AI ツールを活用して校正支援を行う。
- ・ 著者による原稿作成とデータ整備を推進する。

5. 目標

- ・ 出版点数の拡大。
- ・ 作業負担の軽減。
- ・ 多様な作品群の発表。

本提案については、出席者全員の賛成により承認された。

今後、具体的な作成フロー（著者と協会の役割分担等）や契約書・利用規約の整備、新レーベル名などを次回理事会で検討し、2026年1月の開始を目指す。

また、新レーベルにおける電子書籍発行企画として、会員のあすみねね氏『春の闇』、ねこ沢ふたよ氏『大江戸町火消し。マトイ娘は江戸の花』をテストケースとして進める。

従来の「歴史行路文芸文庫」は契約があるため、新規で2作を追加し、既刊21タイトルは引き続き販売を継続する。

関連報告（理流）

Wordによる電子書籍作成のテストケースとして、『第14回日本歴史時代作家協会賞受賞の言葉と選評』を作成し、11月10日よりAmazonで販売を開始した。

URL : <https://www.amazon.co.jp/dp/B0G1K2FRWX/ref>

参考

- ・ Kindleペーパーバックの最小ページ数は表紙を除く本文24ページ。
- ・ ペーパーバックには、販売不可の校正刷りと、著者が販売・献本に利用できる著者注文コピーがある。
(例：『小説を書く人のChatGPT活用入門』（販売価格1,210円）の場合、著者用コピーは1部480円+送料)

②新規会員の入会金と年会費について

翌年3月までの会員の残余期間が6カ月未満（10月以降に）の入会者について、初年度は年会費を無料として入会金1万円のみを申し受ける。（現在は、会則第8条2項を援用して、初年度年会費1万円とし、翌年度の年会費を無料として対応している）

総会にて、上記の運用を会則に明記することとする。

2. 報告事項

① 第 14 回日本歴史時代作家協会賞 授賞式・パーティー結果報告（加藤理事ほか）

パーティーの振り返り

- 「これまでで一番良かった」との声が多く、飯島理事の司会、ゲストスピーカー中村橋之助氏の華やかな登壇、豊島屋の紹介などが好評だった。
- 参加者は 87 名（前年 109 名）で約 20 名減少。約 16,000 円の赤字（表彰盾制作費等一部経費を除く）。
- チラシはほとんど取られなかつたため、今後は事前に小冊子と同封するなど工夫が必要。
- 受賞者が授賞式中に立ちっぱなしだつたため、今後はフォローを検討する。
- 人数減少により受付はスムーズで、Peatix 導入により現金のやり取りが減り運営が容易だった。
- 料理は 65 人分でちょうど良い量。味も好評（ケータリング業者は従来と同じ）。

② 10 月 2 日（木）女子チーム主催イベント報告（橋理事）

- 約 15,000 円の赤字。
- 非会員 3 名がその後入会する成果を挙げた。

③ 歴史行路文庫の数字報告（久宗理事）

- 資料が間に合わず、今回は割愛。

④ シェア型書店「ほんまる」現状報告（理流）

- 7～8 月に戦争小説特集を実施。9～10 月に会員本展示を開催。

- 11月より「第14回協会賞受賞作品展」を開催中。

⑤文学フリマについて（出店スタッフ募集）

- 橘かがり氏、氷月葵氏がスタッフに立候補。
- あすみねね氏にもスタッフを依頼予定。
- 会員向けに、ブース展示・販売作品の募集を行う。

⑥広報発行および日本文藝家協会イベント報告

- 次回広報は12月締切、2月または3月発行予定。
- 会員エッセーは夜弦雅也氏、松永弘高氏に依頼予定。
- 日本文藝家協会との共催イベントは、来年2月または3月の開催を検討（配布資料参照）。

To Do

- 11月16日（日）までに、新レベル名案を各自、事務局（jhwa-info@rekishijidai.com）宛に提出。
- 理流が候補リストを作成し、12月の理事会で決定予定。

次回理事会

12月にZoomにて開催予定。

以上